

子どもは2歳代のころから

「大きい」と「小さい」「長い」と「短い」など反対概念を獲得していきます。

ものに名前をつけ、同じ名前のものでちがいを認識し、反対の概念を獲得していきます。5歳ころになると、四角を「大小」に書き分けることができるようになり、その中間も芽生えてきます。

6歳ころには、正面横向きの人物画も描くようになります。

このことはイメージが育ち、視点の移動ができることをあらわしています。

言語性を伸ばすために、こんな指導もしています。

「ふね」と「あり」の大きさ比べをします。

・「大きいふね」を描いた絵カードと「小さいふね」を描いた絵カードで「大小」を比べる。

・「大きいふね」と「小さいふね」が1枚に描かれている絵カードで「大小」を比べる。

・「大きいふね」を描いた絵カードと「小さいあり」を描いた絵カードで「大小」を比べる。

・同じ大きさで描かれた「ふね」と「あり」の絵カードで「大小」を比べる。

6歳のころになると、そのものの用途を説明し、一般化した表現ができるようになりま

す。  
「えんぴつ」の絵カードを見せて、「これは何ですか」「お話して」と問います。

「色鉛筆を買ってもらった」

「字を書く」

と答える子がいます。

「かさ」の絵カードを見せて、同じように問うと、

「青いのをもってる」

「雨の日にさす」

「ぬれないようにさす」

と答える子がいます。

「えんぴつは字を書くものです。」

「かさは雨にぬれないようにさすものです。」

経験だけを答える子に、用途やより一般化した答えを教え、表現するように教えます。

ほかの絵カードでも同じように一般化するように促します。

先に「えんぴつ」や「かさ」で教えた表現法で次のものを説明できるように指導します。

「クレヨン」「けしゴム」「ながぐつ」「ぼうし」の絵カードを使います。

「えんぴつは じを かく ものです。」

文章カードを見せて「えんぴつ」を「クレヨン」に置き換えて、読みます。

「クレヨン」は じを かく ものです。

字もかくけれど、何かをかくときに使うよね。

と問います。

答えが返ってこなければ、

「幼稚園で何かをかくよね」

と問い、

「えをかいた」という経験を思い出させます。

それで、

「クレヨンは えを かく ものです。」

と一般化した表現をしていきます。

同じように

「けしゴムは じを けす ものです。」

「ながぐつは あしを ぬらさない ものです。」

「ぼうしは あたまに かぶる ものです。」

と表現していきます。

同じ時期に、動作絵カードも使い始めます。

「あるく」「はしる」「すわる」「のる」「たべる」などの動作絵カードを使います。

絵カードを見せて

「なにをしていますか？」

と問います。

子どもが

「あるいてる」

と答えます。

「そう、あるいているね。  
じゃ、だれがあるいているのかな。」  
と問います。  
答えが返ってこなければ、  
「男の子かな、女の子かな、」  
と問い、答えを促します。

次は文で表現させます。  
「だれが？」  
と問い、「が」の文字をおきます。  
「おとこのこ」と答えるとすぐに、  
「が」を指差し、読みます。  
「何をしていますか？」  
と問い、  
「あるいて いる。」  
と答えるのを待ちます。  
「おとこのこが あるいて いる。」といった文にして復唱させます。  
単語カードに書いて、復唱しやすいようにします。

次の段階では、先の動作絵カードを使って、5W1Hをつけて、多語文にしていきます。  
「どこへ」はしていますか？  
「だれが」あるいていますか？  
「なにを」たべていますか？  
「どこで」あそんでいますか？  
文にしやすいように問いに対応した「助詞」を置いて、表現させます。

次は、「たつ」と「すわる」「きる」「かぶる」「はく」と「ぬぐ」「とめる」と  
「はずす」といった配列絵カードを使います。  
どこにすわりますか？  
どこからたちますか？  
と問い、文に表現できたら、必ず逆からも問います。  
いすにどうしますか？  
いすからどうしていますか？  
と問い、文に表現させます。